



慕竹猗猗たり

「慕竹猗猗たり」ある雑誌の1月号の巻頭に寄稿した伊與田先生の言葉です。出版社の方から、伊與田先生が11月25日永眠されたという訃報が届いたのは翌日のことでした。百歳でした。

伊與田先生は、大正5年生まれ。安岡正篤氏に師事し百歳を過ぎてなお論語精神の高揚に尽力されていました。先生の論語塾に参加させていただき、『忠恕』と揮毫していただいたのが昨日のことのように思い返されます。

「慕竹猗猗たり」とは、緑滴るような美しい竹が茂っているということ、それを川の畔に見て

君子を連想したという意味です。切磋琢磨の修養を積み、常に身を慎んで麗しき威儀を備えている君子は、一度会えば生涯忘れられない、というのです。

まさに、先生は「慕竹猗猗たり」という言葉を彷彿させる人でした。

先生は、先の巻頭の言葉の中で次のように締めくくっています。『年齢は問題ではありません。各々が命ある限り、一日一日、「慕竹猗猗たり」という言葉に相応しい人物に少しでも近づくと、歩み続けてまいりたいものです。』

先生は、生前講義の中でよく『道を求める人の縁は不思議だ。道縁は無窮だね。』と話され



ていました。私も伊與田先生とご縁をいただいたことに心から感謝するとともに、さらに切磋琢磨して「慕竹猗猗たり」という言葉に相応しい人物、伊與田先生に少しでも近づくと歩んでまいりたいと思います。

先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。



伊與田先生と（平成23年）

※公職選挙法により年賀状等年始のご挨拶は遠慮させていただいています。

林いさお通信

No.137 2016三芳町 10大ニュース
平成29年1月

ピカいち!!のまちづくり
志 恕
林いさお後援会



武蔵野の落ち葉堆肥農法 世界農業遺産推進協議会

落ち葉堆肥農法 世界農業遺産へ

8月24日、武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産推進協議会を発足し、将来に受け継がれるべき伝統的な農業システムとして世界農業遺産に認定申請しました。

武蔵野台地に位置する川越市、所沢市、ふじみ野市、三芳町は、火山灰土に厚く覆われ作物が育ちにくい土地でした。江戸時代、川越藩主松平信綱公、柳沢吉保公によって新田開発が行われ、多くの木を植えて平地林（ヤマ）として育て、木々の落ち葉を掃き集め、堆肥として畑に入れて土壌改良を行ってきました。こうした360年にわたり続けられてきた伝統農法を「落ち葉堆肥農法」と呼びます。この「落ち葉堆肥農法」は今も受け継がれ、それにより平地林は各市町全域にその面影を多く残り、育成・管理されて景観や生物の多様性を育むシステムが作られています。

11月に書類での一次審査を通過し、12月15日世界農業遺産等専門家会議委員、農林水産省による現地調査が行われました。今後、平成29年2月頃第二次審査でプレゼンが実施され、3月頃世界農業遺産認定申請に係る承認（国連食糧農業機関FAOへの申請承認）、及び日本農業遺産の認定結果が通知されることとなります。

写真は、左側一人目から右に正会員のJAいるま野代表理事組合長代理原田代表理事専務、ふじみ野市高畑市長、所沢市藤本市長、三芳町林町長、川越市川合市長、川越農林振興センター橋本所長。

2016 三芳町 10大ニュース

1 第5次総合計画スタート

第5次総合計画(平成28年度～35年度)がスタートしました。3つの基本理念 ①協働のまちづくり ②持続可能なまちづくり ③特性・資源を活かすまちづくり、のもと「未来につなぐ ひと まち みどり 誇れる町」を創ってまいります。



2 「よみ愛・読書のまち」宣言

4月26日臨時議会で「よみ愛・読書のまち」宣言が採択されました。毎月23日を「よみ愛・読書の日」と定め、家庭・学校・図書館・職場・地域で、赤ちゃんからお年寄りまで誰もが生涯にわたり読書に親しみ、本を読み合い心豊かな町を目指します。



3 武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産

川越市、所沢市、ふじみ野市、三芳町で武蔵野の落ち葉堆肥農法を世界農業遺産に申請しました。近隣自治体、関係者のご協力をいただき、前回の課題(エリアと農法の不明確さ)もクリアしての再申請。人事を尽くして天命を待ちたいと思います。



4 ふじみ野市・三芳町環境センター完成

ふじみ野市・三芳町環境センターが完成し、11月1日竣工式典が行われました。敷地内には余熱利用施設「エコパ」、環境学習も行える環境学習館「えこらぼ」、ドッグラン、屋上庭園等も併設され、イベントも実施されています。



5 SMILE 弁当完成

淑徳大学栄養学科と福祉喫茶ハーモニー、そして三芳町が連携して開発したSMILE 弁当が完成し、9月26日に完成発表会を行いました。「Juice=Juice」の金澤朋子さんが福祉喫茶ハーモニーの一日店長としてSMILE 弁当のPRを行いました。



6 「街のひろば」埼玉グローバル賞受賞

NPO法人「街のひろば」が、埼玉グローバル賞を地域国際化部門で受賞。18年間にわたり日本語を母語としない児童や生徒に対し、学習支援及び生活支援を続け、多文化共生社会の実現に大きな貢献をしてきたことが評価されたものです。



7 防災ステーション関東総合通信局表彰

「電波の日・情報通信月間」記念式典において、三芳町が、関東総合通信局長表彰を全国自治体で唯一受賞しました。管内でいち早く、災害発生時に住民が関連情報を取得するための防災情報ステーションを整備したことを評価していただいたものです。



8 健康長寿事業埼玉県優秀市町村表彰

埼玉県の「健康長寿埼玉モデル事業」を活用し、「食べて!歩いて!健康長寿!」事業を開始。町ぐるみで「毎日1万歩」を目指し1500人規模でのウォーキング、SMILE 弁当の食育推進などの事業が高く評価されたものです。



9 自転車安全利用促進条例

「自転車の安全な利用を促進する条例」が10月1日より施行されました。12月10日には、東入間地区交通安全フェアを開催し、三芳町広報大使吉澤ひとみさんを東入間警察一日警察署長にお招きし、自転車の安全利用を呼びかけました。



10 いじめのないまちづくり条例

12月定例議会で「三芳町いじめのないまちづくり条例」が可決しました。いじめが大きな社会的な問題になっています。町ぐるみでいじめをなくし、子供たちが健やかに心豊かに成長することができる町にしていきたいと思ひます。



その他 11～20 のニュース

⑪きれいにする条例施行(12月) ⑫犯罪情報住民提供等に関する協定締結(2月) ⑬西武ライオンズとフレンドリーシティ協定締結(1月) ⑭リオパラリンピック車椅子バスケット永田裕幸選手出場(9月) ⑮広報みよし4年連続全国広報コンクール入選(5月) ⑯地方創生加速化交付金農業センター拠点整備事業7400万円(8月) ⑰熊本地震に災害ボランティアで町職員参加、熊本市へ職員派遣(4、10月) ⑱「Juice=Juice」の金澤朋子さん広報大使アシスタントに委嘱(8月) ⑲健康長寿事業参加者1500人に(5月) ⑳第35回全国児童画コンクールにて唐沢小学校3年生宮腰侑歌(ゆうか)君文部科学大臣賞受賞

